

Tel: 099-285-7285 Fax: 099-285-7286

Mail: ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp HP: http://ka-kumiai.jp/

(第1回学習会)日本学術会議と会員任命拒否問題について考えるご報告-1p
(法文学部支部レクレーション)秋の遠足ご報告-----1p
(第2回学習会)コロナ禍での労働と教育研究を考えるご報告-----2p
新型コロナウイルス感染症対応アンケート結果ご報告-----2p

第1回 学習会

『日本学術会議と会員任命拒否問題について考える』開催ご報告

11月23日(月・祝)の14時より、渡邊弘先生(共通教育センター)と面高俊宏先生(鹿児島大学名誉教授)を講師にお迎えして、日本科学者会議鹿児島支部との共催で、第1回学習会「日本学術会議と会員任命拒否問題について考える」を開催しました。当初対面での開催を予定していましたが、学内でのコロナ・クラスターの発生を受けて、急遽zoomでの開催に切り替えて実施しました。参加者は約30名でした。まず、渡邊先生(「日本学術会議会員任命拒否問題-1人の憲法学研究者

の立場から)に、日本国憲法第23条の「学問の自由」についてわかりやすく説明していただいたうえで、今回の日本学術会議会員任命拒否問題の法令との関係などについて解説していただきました。次に、学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会の元連携会員の面高先生(「日本学術会議の元一連携会員の意見」)から、学術会議の組織、活動内容や欧米での「学問の自由」について紹介いただきました。

(法文支部 山本)

法文学部支部 レクレーション



『秋の遠足-旧鹿児島城下町南部を歩く』開催ご報告

11月28日(土)、森脇広先生(鹿児島大学名誉教授、専門は自然地理学・地形学)と支部書記長の小林善仁先生(法文学部人文学科、専門は地理学)に解説をお願いし、法文学部支部第1回レクレーション「秋の遠足-旧鹿児島城下町南部を歩く」を開催しました(組合本部より支部活性化経費の支援をいただきました)。当日は、ちょっと肌寒い陽気でしたが、10名の参加がありました。午前中は、城山展望台にて、鹿児島市街地を眺めながら、森脇先生に火山との関係を中心に鹿児島の地形の形成過程や特徴について、また黎明館へ下る途中に城山の地層について解説していただきました。黎明館で常設展を見学後、中央公園で美味しいお弁当を食べて、午後は、天文館から松原神社周辺、加治屋町を歩きながら、小林先生から鹿児島城(鶴丸城)の城下町や明治維新で活躍した郷土の偉人について解説いただきました。

(法文支部 山本)



第2回 学習会

『コロナ禍での労働と教育研究を考える』開催ご報告

12月16日(水)の18時より、組合本部と法文学部支部の共催で、第2回学習会「コロナ禍での労働と教育研究を考える」(法文学部201号教室)を開催しました。コロナ対応で、対面とzoomの併用での開催となりましたが、出席者は13名でした。まず、石塚孔信副委員長(法文学部)より、組合本部が実施した「新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況アンケート」の集計結果とそれを踏まえた問題提起が行われました(詳細は石塚先生の報告記事をご覧ください)。後半は、法文学部の伊藤周平先生(法文学部、専門は社会保障法)に、「コロナ禍での労働・雇用と教育研究の課題」というテーマでご講演いただき、日本の社会保障・雇用保障の脆弱性、政府の新型コロナ対策の問題点、大学での新型コロナ対策の在り方等についてお話いただきました。社会保障制度の問題点については、7月に発行された伊藤先生著『消費税増税と社会保障改革(ちくま新書)』をお読みください。

学習会の報告資料及びアンケートの集計結果は組合本部ホームページ(「組合ニュース・広報」のページ)に掲載しておりますので、参加されなかった方はご覧ください。(法文支部 山本)

『新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況アンケート』結果ご報告

教職員組合では、今年度、新型コロナウイルス感染症がまん延してきている中、大学での研究・教育・学内業務における学生・教職員の負担や不安が増幅しているのではないかとと思われることから、学内の教職員組合の組合員に対して、アンケート調査を行い、その実態を把握することにしました。

アンケート期間は、2020年9月18日から10月31日までとし組合員の皆さんに調査票に答えていただきました。結果として、54名の教員と41名の事務職員・技術職員、合計95名から回答を得ることが出来ました。

その結果から、教育・研究・診療・学内業務について教員の回答からは、やはり、負担が増えたとの回答が86%に上り、その中でも教育についての負担が増えている実態が浮き彫りになりました。内容については、

- ① オンライン授業への対応に時間を割いた。(教材づくり、zoom授業の作成、オンデマンド化等)
- ② 卒論、修論、博論指導に手間と時間がかかる。
- ③ 実験・実習における感染防止対策
- ④ ソーシャルディスタンスを保つことや感染防止のための消毒等などの授業準備
- ⑤ 野外実習の実施の際の移動制限に対する検討
- ⑥ 慣れない機器への対応へのストレス

等が挙げられ、初めての経験に戸惑いながら対応する中で、かなりの負担を感じていたことがわかります。また、事務職員・技術職員からの回答からは、負担が増えたという回答が35%を超えて、その内容については、

- ① 通常業務が増えた。
- ② 重症患者が一般病棟に多く出てくるようになった。
- ③ 新型コロナウイルスの影響で新たな手続きや制度が加わり業務の負担が増えた。

④ 実習対応についてのマニュアルづくりや担当教員との確認作業、消毒作業の手続き等業務が増えた。等が挙げられ、やはり、通常時より業務量が増えてきたことがうかがえます。

・遠隔授業については、総体的には講義については、そのメリットとデメリットが挙げられていて、遠隔と対面の長所を取り入れて、コロナ後もハイブリッド型の講義形態を今後は考えていくことも検討していく必要もあるのではないかと考えましたが、演習・実習・実験については、対面でないと難しいという意見が圧倒的であり、講義と実習系の授業では、その特性から異なった対応が必要なのかなと思われました。

・在宅勤務については、教員は研究においては、文献を読むタイプの研究は支障がないが、実験や実習の必要な研究については、ほとんど不可能であるという意見が多く、また、学内業務については、教員も事務職員・技術職員の両者ともに資料等を持ち帰ることが困難なので、難しかったという意見が多かったです。ただ、オンライン会議で効率化が図られたり、交代制で実施できたということで、そのメリットについての回答もありました。

・コロナウイルス禍への対応は、今年度は初めての対応でしたので、皆、試行錯誤でやっていながら、そのメリット・デメリットを感じているという実態がわかりましたので、今後、コロナウイルス禍以降も含めて、よりよい対応を模索していくことが必要かと思いました。

このアンケート調査につきまして、多くの組合員の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。(法文支部 石塚)



今年も大変お世話になりました。
良いお年をお迎えください。

